

〈修了書類 「当センター指導の概要」〉

●当センターの指導方針・指導目標

当センターの研修は、来日直後の帰国者を対象に4か月にわたって行われるものです。中国帰国者に対する教育指導は本質的には「異文化適応教育」と意義付けられますが、当センターの研修はその中の「予備的集中研修」という役割をもつものと言えます。すなわち、まだ日本での実生活に入っていない学習者に対して短期集中研修を行うことによって、定着後の学習にスムーズにつながり、それが最終的には適応に結び付くことをめざしています。

当センターの研修では、「日本での生活への自信と意欲、それを裏付ける基礎知識、基礎技能」という大目標が掲げられていますが、これは次の三つの認識に基づいています。

1. 異文化適応は最終的には帰国者一人ひとりが実際の生活を通して自ら達成すべきものだという認識
2. そのような生活実践の努力を積み重ねていくには、適応が可能であり努力の結果が報われるという実感からくる前向きな姿勢（「自信と意欲」）が不可欠だという認識
3. そのような自信と意欲を裏打ちするものとして、当センター退所後の日常生活の中に学習の機会が豊富にあることを見だし、その学習機会を有効に活用できるような「基礎的な知識と技能」が必要だという認識

このように、当センターで言うところの「基礎知識、基礎技能」とは、なによりも、実践を通じて活用し、「学習できた」「成長している」という体験・実感を意識化して自信や意欲を獲得するためのものなのです。

この大目標は、さらに学習者のタイプごとに、中目標、小目標群に具体化され、小目標は最終的には達成目標群に具体化されています。このように構造化・具体化して設定された目標群の達成に向けて、必要となる日本語と日本事情の学習項目を盛り込んだ研修プログラム、およびそれを支える指導活動や教材、評価法が開発・改良されてきています。

●当センターにおける研修の概要（学習者とコース）

- ◎コースの種類： <孤児と配偶者のための大人コース>（帰国婦人の同伴家族を含む）
<学齢後の二世のための青年コース>（帰国婦人の同伴家族を含む）
<学齢期の二世のための子供コース>（帰国婦人の同伴家族を含む）
<帰国婦人コース>
- ◎入所、学習期間： 年に3回（2、6、10月）の入所で、各期それぞれ4か月弱のコース。
※<帰国婦人コース>は状況により4か月弱または2か月
- ◎学習者の世代構成、世帯数： 孤児本人とその配偶者（40～60歳代）、帰国婦人の同伴家族（6～40歳代）、おおむね20歳までの二世、帰国婦人（70歳前後）。各期最高56世帯まで。
- ◎学 習 時 間： 月～金：研修棟で6時限（1時限＝50分）の研修
土：宿泊棟で3時限の研修
※<帰国婦人コース>は各期の状況により決定
- ◎ク ラ ス 数： 各期10～20クラスに編成。
- ◎指 導 内 容： 「指導内容一覧」参照。

●研修担当部署

- ◎教 務 課： 日本語・日本事情について（週28時限）
- ◎定 着 指 導 課： 定着に関する日本事情及び職業指導について（週2時限）
- ◎宿 泊 棟： 宿舎での生活に関する生活指導について（週3時限）

< 修了書類「指導内容と評価」 > 大人・青年コース

平成 年 月 日
 中国帰国者定着促進センター
 教務課長 小林悦夫 印

1. 日本語・日本事情評価

第 期	クラス	氏名：	年齢	歳	性別：
研修期間：平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日					

	1	2	3	4	5
生活行動				
	1	2	3	4	5
生活知識				
	1	2	3	4	5
会 話				
	1	2	3	4	5
読み書き				
	1	2	3	4	5
文 法				

1：かなり困難である 2：困難がある 3：多少困難がある
 4：なんとかできる 5：できる

教務課	クラス担任所見	および	特記事項	担任氏名

※評価は教務課担当の部分についてのみ行っています。

2. 指導内容一覧

大人コース

F

 クラス

身近な生活行動場面の基礎知識・技能		将来の生活に有用な基礎知識・技能	
(1) 交通	○交通安全○道聞き○電車利用○バス利用○事故や緊急時への対応	(1) 一般教養	○政治体制の相違○簡単な戦後史○簡単な地理○生活様式と価値観○帰国者問題○簡単な機器操作○情報メディアと情報提供機関
(2) 消費生活	○商店・価格○買い物○身近なサービス○つり銭・換品○訪問販売等への対応○金融機関の利用法	(2) 異文化	○異文化適応過程○異文化事例○サポートの入手法・精神安定■人生設計
(3) センター	○欠席・早退・遅刻の届け○日直●センターの規則等	(3) 日本語の自学自習	○生活の中での学習○日本語学習の基本的技能○学習課題の設定と実施・自己評価
(4) 住居・近隣への応	●住宅の安全・衛生●生活器具の使用法■住宅事情・入居方法■近隣との交際■引受人等の役割○交際のマナー	基礎的コミュニケーション力	
(5) 職場・学校	■求職■職場の習慣○面接試験	(1) 話題をめぐるコミュニケーション	○様々な手段を用いたコミュニケーション○身近な話題をめぐるコミュニケーション○状況に応じた話題の展開
(6) 健康	○医療制度○保健衛生○医療機関の利用	(2) 日本語の知識	○文字：平仮名、身近な片仮名、身の回りの漢字○基本的な語彙表現の理解と一部使用○発音○文法の基本的知識○簡単な短文の読解と作文
(7) 通信	○電話事情と利用○郵便事情と利用		
(8) 社会福祉・手続き	■公的援護○諸手続の種類と方法		
(9) 子弟の教育	○学校・教育事情と帰国者二世の進学事情○小中学校の生活と学校との連絡○適応上の問題と対策		

○ 主に教務課が担当した項目
■ 主に定着指導課が担当した項目
● 主に宿泊棟が担当した項目

上記の内容を指導するための教材としては、『日本の生活とことば』シリーズ等、当センターで開発した教材を中心に、各種の補助教材を組み合わせて用いました。各指導項目毎に、最後の仕上げまたは導入の段階で実習を行い、本当に使える能力を身につけさせようとしてきました。

< 修了書類「指導内容と評価」 > 子供コース

平成 年 月 日
 中国帰国者定着促進センター
 教務課長 小林悦夫 印

1. 日本語・学校事情評価

第 期	クラス	氏名：	年齢	歳	性別：
研修期間：平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日					

学校生活における 知識と行動	1	2	3	4	5
				
学習活動の知識 と技能	1	2	3	4	5
				
会 話	1	2	3	4	5
				
読 み 書 き	1	2	3	4	5
				
文 法	1	2	3	4	5
				

1：かなり困難である 2：困難がある 3：多少困難がある
 4：なんとかできる 5：できる

教務課	クラス担任所見	および	特記事項	担任氏名

※評価は教務課担当の部分についてのみ行っています。

2. 指導内容一覧

中学生コース V クラス

学校・日常生活に必要な基礎知識・技能			
(1) 学校生活	○日直●センターの規則等 ○中学生クラスのきまり○ 学校との連絡○身だしなみ と衛生○授業やテストの準 備		○地理：日本の地理、地図 の見方や図表の読みとり、 世界の国々の名称と位置 ○歴史：日中関係の主な出 来事 ○日本国憲法の特徴 ○テストの形式と指示 ○地理や歴史などの教科書 の使い方 ○グループ活動 ○補充：数学の一部と興味 のある分野など
(2) 日本の中 学校	○学校制度○中学校事情 ○中学生の生活		
(3) 学校外の 生活	○交通安全○道聞き・電車 バスの利用○買い物○電 話○公共施設の利用○訪 問のマナー		
		(2) 自己学習	○日漢辞典などの使い方○ 学習計画の立て方
将来の生活に有用な知識		基礎的コミュニケーションカ	
(1) 帰国者二 世の状況	○帰国者問題の歴史的背景 ○中国と私○適応上の問題	(1) 将来の学 力言語の基 礎としての 日本語力	○文字：平仮名、片仮名、 日常よく使われる漢字、ロー ーマ字○基本的な語彙表現 の理解と使用○教科書の大意 や簡単な読解教材の理解 ○簡単な日記や自己紹介文 など基礎的な文型を用いた 作文
(2) 帰国者二 世の進路 進学事情	○中学校編入等進路につい て○進学に関する情報○情 報の入手方法		
学習活動に必要な基礎知識・技能			
(1) 教科の内 容と活動	○技能教科：ハ長調の五線 譜、ソプラノリコーダー、 ラジオ体操、体力測定、水 彩絵の具、弁当調理、裁縫 ○数学科の用語と用具の使 い方 ○原稿用紙や毛筆の使い方	(2) 教師や同 級生とのコ ミュニケー ション	○様々な手段を用いたコミ ュニケーション○身近な話 題をめぐるコミュニケーシ ョン

○ 教務課が担当した項目

● 主に宿泊棟が担当した項目

〈修了書類「修了生データ」〉子供コース
修了生（児童・生徒）資料

ふりがな		ふりがな		中国
中国名		日本名		出身

中国での学歴	小学校	年制	卒・年次 中退・修了	昭・平 年 月まで
	中学校	年制	卒・年次 中退・修了	昭・平 年 月まで
	高校	年制	卒・年次 中退・修了	昭・平 年 月まで
		年制	卒・年次 中退・修了	昭・平 年 月まで
中国での日本語学習歴		有・無	独学 年 ヶ月	学校 年 ヶ月

※中国の学校は 月開講です。

<p>編入学年担任の所見 _____程度（平成 年 月時点）</p> <p style="text-align: center;">本人の希望 _____程度（平成 年 月時点）</p>

※定着促進センターを退所した子女を受け入れる学校では、何学年に編入するかということが大きな問題となっています。本人たちの希望や日本語力、学力を考慮して編入学年を決定しても、2～3年経過した後に同級生との体格や精神の成長度において、著しく大きな差が出てきたというケースも多く生じています。

現在編入学年決定については、子女の年齢と学力や日本語力との関係がまちまちなため明確な基準等はありませんが、私どもが知っている限りにおいては、とりあえずその子女の年齢相当の学年に編入させた上で、必要に応じて本人の弱いと思われる科目を1～2年下のクラスで受けさせる方法が最も現実的で妥当な方法ではないかと考えております。これは日本では、一度学籍を得ると、その後に飛び級はできないという事情があるからです。受け入れてくださる学校の事情や子女のケースにより、こうだと一概にはいえませんが、本人や関係者とも相談の上善処されることをお願いいたします。

なお、編入学年決定のご参考のために、退所時点の当人の日本語力と学力を総合したレベルについて当センタークラス担任の所見を、また「本人の希望」として、子女本人が希望している編入学年を記入しました。

★学習者の中国での学習状況、また当センターでの学習状況について、詳しい内容をお知りになりたい場合は、当センター教務課担任宛にいつでも電話でご連絡ください。

(Tel 0429(93)1660)

